

事例3 ビジネスの諸活動において、情報を主体的に活用させ、表現させる指導の工夫

1 ねらい

新学習指導要領において、「情報処理」では、ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する一連の活動を、知的財産の保護などに留意して適切に行い、ビジネスの諸活動において情報を活用する能力と態度を育てるという観点から、ビジネス情報の処理と分析やプレゼンテーションに関する内容が取り入れられている。

指導に当たっては、文書処理ソフトウェアや表計算ソフトウェアなど各種ソフトウェアの操作方法を習得させることにとどまらず、具体的なデータを用いて、情報を収集・処理・分析し、表現するための実習を取り入れ、情報を主体的に活用できる能力を育てることが大切である。

これを踏まえ、本事例では科目「情報処理」の調査研究を行った。

複数の情報から目的に合わせて情報を取り出し、加工してプレゼンテーション（発表）を行うという一連の学習活動により、情報活用能力を育成することを目指した。具体的には、複数の情報の中から、新製品の販売促進を図るために適切な情報を取捨選択し、情報を処理・分析して発表するという学習活動を行った。この一連の学習活動を通して、情報を主体的に活用させ、表現させる力を身に付けることを目標とした。

2 指導実践

(1) 指導内容

- ・表計算ソフトウェアのグラフ作成機能を利用して、目的に合ったグラフを作成し、帳票や報告書などのビジネス書類を作成し、プレゼンテーションをさせる。

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
① グラフの種類や特徴に関心をもち、目的に合った表現について考えようとしている。	① 表計算ソフトウェアの機能を用いて適切な報告書に表現しようとしている。	① 表計算ソフトに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	① 発声や話す速度、表情や姿勢、話の構成など、プレゼンテーションを行うための技法を身に付け、ビジネスの諸活動に関する意義や役割を理解している。
② 報告書の作成方法について関心をもち、考えようとしている。	② 目的に応じた適切な情報を選択して報告書を作成している。	② 提示された情報を適切に処理し、目的に合った報告書をまとめている。	
	③ 表やグラフを工夫し、報告書を作成している。	③ まとめた資料を活用し、提案の趣旨を正確・簡潔に伝えるプレゼンテーションをしている。	

(3)指導計画（５時間）

時間	学習内容	評価					
		関	思	技	知	評価規準	評価方法
1 ・ 2	○提案書の検討・作成 （２時間） ・配付された情報を活用してワークシートを検討する。 ・ワークシートをもとに提案書を検討する。	① ②	 ① ②	 ①		・情報を整理し、積極的に活用しようとしている。 ・目的に合った提案書を作成するため、情報を適切に選択している。 ・表計算ソフトに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	ワークシート 提案書 行動観察
3 ・ 4	○発表の準備 ○発表 （２時間） ・提案書の作成。 ・提案書を利用し発表するための準備をする。 ・発表及び評価				①	・聞きやすい発声や速度、聞き手を引きつける話の構成など、プレゼンテーションの技法を理解している。 ・聞き手を考えた表現で、提案書の趣旨を正確・簡潔に伝える発表をしようとしている。	提案書 発言 行動観察
5	○提案書の編集 （１時間） ・評価から提案書の再検討をする。		③		②	・発表の評価や改善点をもとに再検討し、より分かりやすい提案書を作成している。 ・適切な方法で提案書をまとめることができる。	提案書 行動観察

(4)授業の概要

ア．１・２時間目の授業

段 階	学習活動	指導上の留意点
導 入	・単元の学習内容の予告と教科書の内容を確認する。	
展 開	・配付されたデータの内容を確認する。 ・ワークシートを用い、どのデータを使用し、どのような提案書を作るかを話し合い決定する。 ・表計算ソフトを使い、資料を作成する。	・１班２～４名で７班を作る。 ・具体的なデータを基に、目的に応じた表やグラフを作成することを促す。
まとめ	・次回の学習内容の概要をつかむ。	

第３学年を対象に実践授業を行った。１・２時間目の授業内容は、自分たちが携帯電話メーカーの販売促進担当者と想定し、新機種の利点を販売店員に理解してもらうために、具体的なデータを基にして提案書を作成するというものである。授業に先立ち、多種多様なデータ【資料１】を提供し、生徒たちが様々な視点から自主的・主体的に考察できるようにした。さらに、学習活動を通して情報を処理・分析し表現することを目指した。

【資料１】

アンケート調査結果

配付データ（一部）

機能比較表		従来型携帯電話	スマートフォン		
		A	B（旧機種）	C（新機種）	D（他社機）
本体	発売日	2010年10月	2010年10月	2011年10月	2011年10月
	縦	110mm	120mm	115mm	120mm
	横	50mm	60mm	58mm	59mm
	厚 さ	18mm	12mm	8mm	9mm
	重 さ	200g	150g	130g	140 g
	容 量	16GB	8GB	32GB	16GB
	サイ ス	3.0インチ	3.5インチ	3.6インチ	3.7インチ
画面	最大表示色数	26万色	6.5万色	26万色	16万色
	解像度	480×320ピクセル	480×320ピクセル	960×640ピクセル	960×640ピクセル
カメラ	有効画素数	808万画素	320万画素	510万画素	810万画素
	フラッシュ	フライト	—	LEDフラッシュ	フラッシュ
その他機能	連続待受時間	560時間	300時間	400時間	300時間
	連続通話時間	最大4時間	最大4時間	最大で8時間	最大で6時間
	動画録画時間	180分	60分	230分	134分
	赤外線通信対応	○	—	○	○
	インターネット利用	最大4時間	最大4時間	最大6時間	最大5時間
	カラー	全12色	黒・白のみ	黒・白・銀・金・ピンク	全10色
	防 水	防水	—	防水・防塵	防水
	ミュージックプレイヤー	WMA	MP3	WMA・MP3	WMA・MP3
	オリジナル機能	—	—	マルチタスク HDビデオ撮影・編集 ビデオ通話	ツイステードカー インカメラ搭載 手書き文字認識

購買層	性 別		世 代 別					
	男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
A	60%	40%	20%	20%	15%	15%	20%	10%
B	70%	30%	5%	10%	40%	35%	9%	1%
C(予想)	50%	50%	10%	25%	25%	25%	10%	5%

B(旧機種)の使用者へのアンケート結果

1. 使いやすさ：とても使いやすい50%、使いやすい30%、使いづらい20%
2. 大きさについて：大きい10%、厚い10%、普通70%、小さい10%
3. もっと他にほしい機能は？

カメラの画素数を大きくしてほしい 容量がほしい
 もっときれいな色のものがほしい 赤外線通信を可能にほしい

C(従来型携帯電話)使用者に対するスマートフォンのモニターアンケート結果

1. 使いやすさ：とても使いやすい60%、使いやすい30%、使いづらい10%
2. 大きさについて：大きい10%、厚い10%
3. 使用してみた感想

ディスプレイがとてもきれいで見やすい バッテリーが長持ちする
 LEDフラッシュで美しい繊細な写真を撮ることができた
 かわいい色が発売されたので買いたくなった 薄くて軽くて使いやすい

各班がどこに視点を置いて販売店に新機種の良さを理解してもらうか、販売戦略の方向性を決めるために目的に応じた適切なデータを取り出させた。データの内訳は従来機・他社機との機能比較ができるものや、売上高の推移、購買層分析、予想データ、アンケート結果などである。販売店員が新機種の特徴をより理解しやすい提案書の骨子を考察するためのワークシート【資料2】に記入するとともに、パソコンへの入力も行うことを指示した。

この学習活動では、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用し表現することができた。A班及びB班の一連の学習活動に焦点を当てて報告する。

【資料2】

スマートフォン資料作成ワークシート

あなたはスマートフォンを製造するメーカーに勤務しており、販売促進の担当です。
新機種Cを販売店に卸すにあたり、まずは販売員に新機種の良さを知ってもらいたいと考えました。
そこで、販売員が消費者に対しより分かりやすい説明ができるよう、販売員向けの資料を作成することにしました。
手元にあるデータを使い、販売員が新機種Cをより理解し、販売しやすくなるような資料を作成してみましょう。

1. どのデータを使用するかを決めましょう。
2. その中でも特にどのデータを一番に強調しますか？
3. どんなグラフをつければ、より分かりやすくなりますか？
4. 販売員に資料を使って説明する際、どんなプレゼンをしますか？



ワークシート【資料2】を検討している様子

生徒たちが作成したワークシートの一部【図1-1】【図1-2】を以下に示す。

【図1-1】

スマートフォン資料作成ワークシート

あなたはスマートフォンを製造するメーカーに勤務しており、販売促進の担当です。
新機種Cを販売店に卸すにあたり、まずは販売員に新機種の良さを知ってもらいたいと考えました。
そこで、販売員が消費者に対しより分かりやすい説明ができるよう、販売員向けの資料を作成することにしました。
手元にあるデータを使い、販売員が新機種Cをより理解し、販売しやすくなるような資料を作成してみましょう。

1. どのデータを使用するかを決めましょう。

BとCの比較
BとCのデータの利用
Bを利用している人へのアンケートを参考にする(機能面)

2. その中でも特にどのデータを一番に強調しますか？

旧商品と新機種の機能の比較

3. どんなグラフをつければ、より分かりやすくなりますか？

旧商品と新機種を比較した表

4. 販売員に資料を使って説明する際、どんなプレゼンをしますか？

使用アンケートの結果を活かして、新機種の改善点をアピールする

ワークシート（A班）

従来型携帯電話からの新規開拓ではなく、すでにスマートフォンを利用しているユーザーへの機種変更を促すような戦略をとっている。

具体的には、旧機種と新機種の比較に重点を置き、消費者が選択する立場で提案書を作成しようとするのが分かる。また、アンケート調査結果から、B機種（旧機種）を利用しているユーザーへのアンケート結果に着目するなど、情報を活用することを意識しており、戦略に必要なデータ収集・処理を行おうとしている様子が見えてくる。

【図1-2】

スマートフォン資料作成ワークシート

あなたはスマートフォンを製造するメーカーに勤務しており、販売促進の担当です。
新機種Cを販売店に卸すにあたり、まずは販売員に新機種の良さを知ってもらいたいと考えました。
そこで、販売員が消費者に対しより分かりやすい説明ができるよう、販売員向けの資料を作成することにしました。
手元にあるデータを使い、販売員が新機種Cをより理解し、販売しやすくなるような資料を作成してみましょう。

1. どのデータを使用するかを決めましょう。

A・B・C・D のすべての比較
モニターアンケートの結果

2. その中でも特にどのデータを一番に強調しますか？

最大連続通話時間
最大インターネット利用時間

3. どんなグラフをつければ、より分かりやすくなりますか？

アンケート結果を円グラフに使用して表したい

4. 販売員に資料を使って説明する際、どんなプレゼンをしますか？

グラフをよく見えてもらって納得させる

ワークシート（B班）

多くのユーザーが多機能なスマートフォンを購入するにあたり、判断するポイントは何かという視点で考察していることが特徴的である。

具体的には通話時間とインターネット利用時間に絞ることで、ビジネスマンを意識した提案書を作成しようとしている。ビジネスマンというユーザー層をねらい、一点突破から展開を図ろうとしている様子が見えてくる。

始めは報告書の完成のイメージがわからず、多くの班が戸惑いを見せたが、ワークシートを作成することで、しだいに描く姿が明確になり、提案書の表やグラフの種類など作成するための方向性が見えてきたようである。

イ. 3 時間目の授業

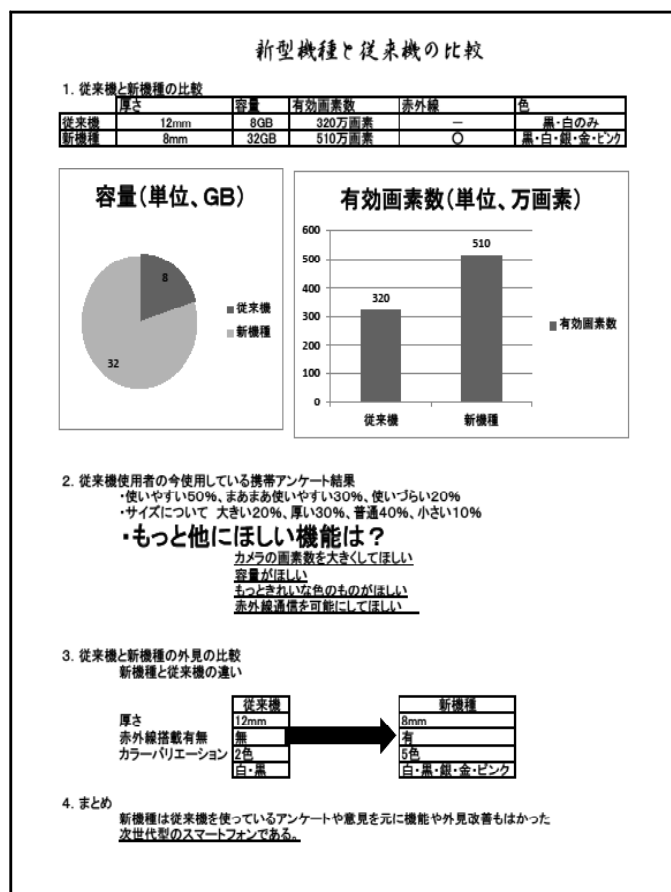
段 階	学習活動	指導上の留意点
導 入	・ 本時の活動内容を把握する。	
展 開	・ 前時に作成したワークシート【資料2】から提案書を作成すると同時に、発表の準備をする。	・ 提案書を活用した発表の準備をする。
まとめ	・ 次回の学習内容の概要をつかむ。	

ワークシート【資料2】に基づいて班ごとに提案書を作成した。

ワークシートを活用することで提案書の描く姿が明確になり、活発な意見交換が行われ、自主的・主体的に取り組む姿勢が見られるようになった。同じデータから円グラフや棒グラフなど、いくつかの種類のグラフを作成し見比べて検討している班も見受けられ、それぞれの班が自分たちのねらいにあった報告書を作成していた。

生徒が作成した提案書の一部【図2-1】【図2-2】を以下に示す。

【図2-1】

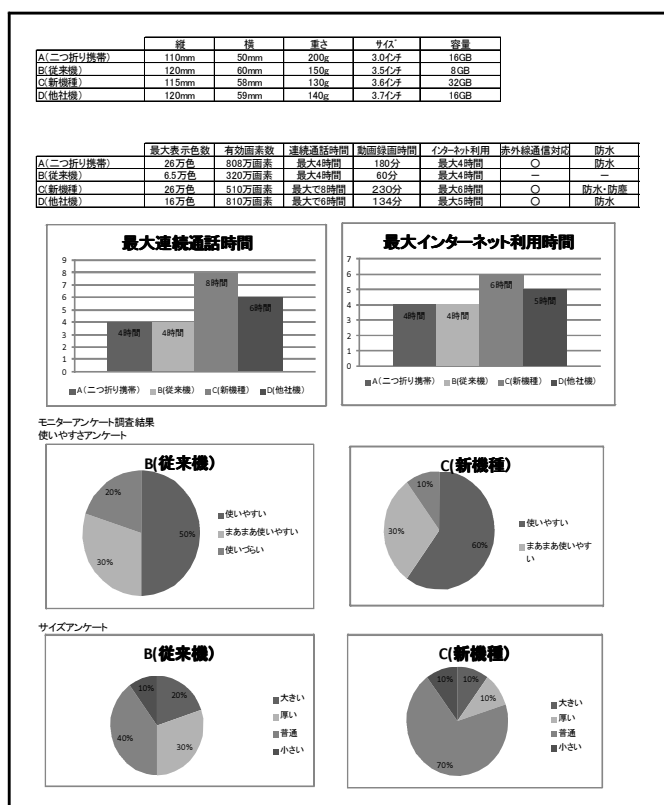


A 班の提案書（発表用）

従来機との比較に絞り、機能が改善されたことや、ユーザーの声を吸い上げてスピード感をもって改善していることをアピールすることで、今後にも期待がもてるように印象付けることをねらっている。

旧機種と新機種との比較だけでなく、使用アンケート結果をもとに改善された点なども強調したことで、分かりやすい提案書になった。

【図2-2】



B 班の提案書（発表用）

ビジネスマンを販売対象と位置付け、通話時間及びインターネット利用時間について他機種にはない特徴を示し、差別化を図ることをねらいとしている。

モニターアンケートからも、通話時間やインターネット利用時間に関する2つの特徴は裏付けられている。

この班の特徴は提案書の目的や対象が明確であり、分かりやすい提案書になった。

各班とも、自分たちのコンセプトをもち、それぞれ特徴のある提案書を作成していた。このことから情報を効果的に活用することは、問いに対して正解は一つではないことを、生徒たちは学習活動を通して再確認することができた。

ウ. 4 時間目の授業

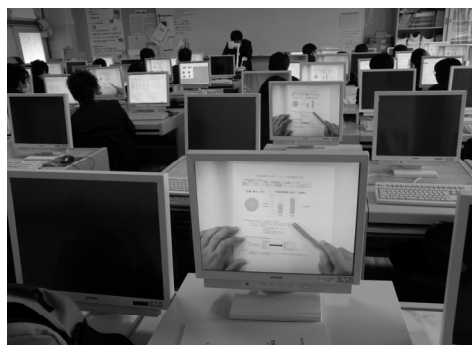
段 階	学習活動	指導上の留意点
導 入	・ 本時の活動内容を把握する。	
展 開	・ 班ごとに発表する。 ・ 発表を聞いている班は、各自評価を記入し、アドバイスなどを付箋（授業ではアドバイスメモと呼ぶ）に記入する。 ・ 発表後、アドバイスメモを各班に届ける。 ・ 発表を見て参考になったことを班ごとに話し合い、他者の評価をもとに、修正して提案書を完成する。	・ 発表の準備をする。 ・ 評価をしながら、自分たちの資料との違いなどをメモしておくように指示する。
まとめ	・ 次回の学習内容の概要をつかむ。	

4 時間目は、前時までに作成した提案書の発表と評価を行った。

発表方法は、作成した提案書を教材提示装置でモニターに映して説明を加えながら、班ごとに発表する形式をとった。プレゼンテーション用ソフトを使用させなかった理由は、検討させた提案書を提示することで、班の新商品の販売促進のねらいが伝わりやすくなると考えたことにある。



教材提示装置を活用し提案書を基に発表している様子



モニターに提案書が映し出されている

発表を聞く側の生徒は、資料の見やすさや分かりやすさ、発表の声の大きさ・内容の分かりやすさ、提案書のねらいと発表が一致していたかなどを評価した。評価方法は、発表を評価表【資料3】に記入させた。また、生徒に改善したほうがよいと思われる事項をアドバイスメモに記入させ、授業の最後に各班に提出させた。

以下が発表風景と使用した評価表【資料3】である。

【資料3】

評価表						
		3年 組 番 氏名:				
		とてもよい	よい	あまりよい	ない	
1班	資料	見やすさ	4	3	2	1
		ポイントのわかりやすさ	4	3	2	1
	発表	声の大きさ	4	3	2	1
		内容のわかりやすさ	4	3	2	1
		資料のポイントと説明があっていたか	4	3	2	1
	感想	.				
2班	資料	見やすさ	4	3	2	1
		ポイントのわかりやすさ	4	3	2	1
	発表	声の大きさ	4	3	2	1
		内容のわかりやすさ	4	3	2	1
		資料のポイントと説明があっていたか	4	3	2	1
	感想	.				
3班	資料	見やすさ	4	3	2	1
		ポイントのわかりやすさ	4	3	2	1
	発表	声の大きさ	4	3	2	1
		内容のわかりやすさ	4	3	2	1
		資料のポイントと説明があっていたか	4	3	2	1
	感想	.				
4班	資料	見やすさ	4	3	2	1
		ポイントのわかりやすさ	4	3	2	1
	発表	声の大きさ	4	3	2	1
		内容のわかりやすさ	4	3	2	1
		資料のポイントと説明があっていたか	4	3	2	1
	感想	.				
5班	資料	見やすさ	4	3	2	1
		ポイントのわかりやすさ	4	3	2	1
	発表	声の大きさ	4	3	2	1
		内容のわかりやすさ	4	3	2	1
		資料のポイントと説明があっていたか	4	3	2	1
	感想	.				
6班	資料	見やすさ	4	3	2	1
		ポイントのわかりやすさ	4	3	2	1
	発表	声の大きさ	4	3	2	1
		内容のわかりやすさ	4	3	2	1
		資料のポイントと説明があっていたか	4	3	2	1
	感想	.				
7班	資料	見やすさ	4	3	2	1
		ポイントのわかりやすさ	4	3	2	1
	発表	声の大きさ	4	3	2	1
		内容のわかりやすさ	4	3	2	1
		資料のポイントと説明があっていたか	4	3	2	1
	感想	.				
・他の班と比べて自分の班の発表はどうでしたか？		4	3	2	1	
・どの班の発表が一番良かったですか？		班				



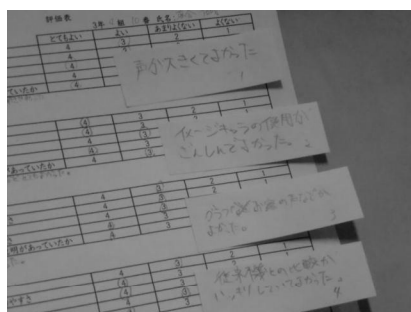
モニターを見ながら発表を聞いている様子



発表に対して生徒たちが評価を行う様子

発表後は、自分たちの提案書が分かりやすいものであったか、伝えたいことがきちんと伝わるものであったか、など検討する際の材料とするため、生徒がアドバイスメモに記入して相手に直接渡し、感想なども伝えあうように指示した。

アドバイスメモを直接渡すことでコミュニケーションをとることができ、メモだけでは伝えにくい部分についても具体的な説明をする機会となった。一方、メモを受けた側は、提案書を修正するヒントにつながった。



評価表と付箋（アドバイスメモ）に記入



アドバイスメモを渡しながら感想を伝え合う様子



エ. 5 時間目の授業

段 階	学習活動	備考
導 入	・ 本時の活動内容を把握する。	
展 開	・ 前時に他の班の発表を見て参考になったことや、アドバイスメモを整理して、自分たちの作成した資料をより分かりやすいものに作成し直す。 ・ 一連の学習活動で感じたことなどをまとめる。	・ アドバイスメモを内容ごとにグルーピングさせ、検討させる。 ・ 授業アンケートを実施する。
まとめ	・ 一連の学習活動に対する教師の講評を聞き、学習活動を振り返る。	

5 時間目は、発表後に自分たちが気付いたことや他の班の発表を見て参考になったこと、また、他の班からの評価やアドバイスメモを活用し、共通する内容をグルーピングして提案書の課題を整理し、発表した提案書をより分かりやすく修正するという学習活動を行った。

○生徒による評価（アドバイスメモから）

（A 班の評価）

・ 発表について

- ・ 発表が分かりやすかった。
- ・ 提案書も説明もとても分かりやすい。
- ・ 新機種が分かりやすくまとめ、発表態度も一番良かった。

・ 提案書について

- ・ 従来機と新機種の比較が見やすく伝えたいことが理解できた。
- ・ アンケート結果が分かりやすく載っていて、話を聞く側を考えていたと思う。
- ・ 情報が多いので、もっと字が大きい方がいい。
- ・ ごちゃごちゃしているので、すっきりさせるとよいと思う。

A班は発表での評価が最も高かった。提案書も分かりやすかったという意見が多く寄せられ、生徒からは好評であった。

（B班の評価）

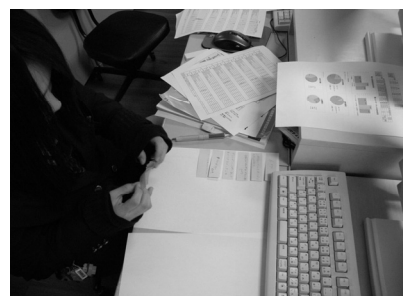
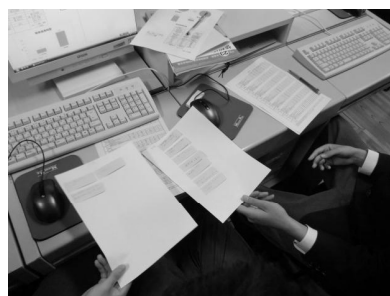
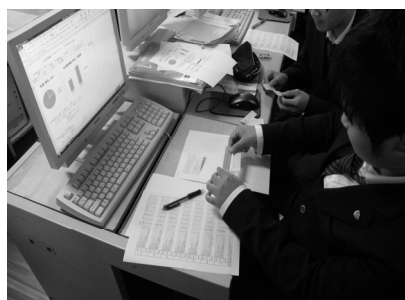
・ **発表について**

- ・発表のテンポや声の大きさが良かったと思う。
- ・もう少し説明も入れた方がよい。

・ **提案書について**

- ・情報を絞って提案書を作成しているので、見やすく分かりやすかった。
- ・グラフがたくさん入っていて分かりやすい。
- ・新機種が優れていることが見てすぐに分かる。
- ・表とグラフの関係が良く分からなかった。

B班の提案書は、説明文を載せずに、表とグラフを中心に作成されているのが特徴である。この提案書は、表とグラフで新機種の良さは理解できたが、なぜ、この新機種を薦めるのか相手に伝わりにくい部分が多く、課題が残ったようである。



評価されたアドバイスメモをグルーピングしている様子

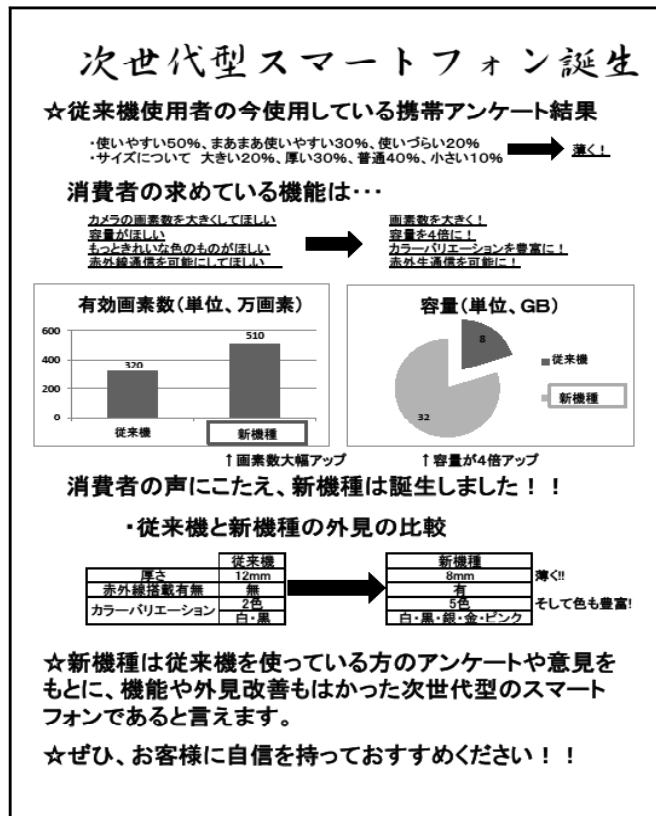


発表した提案書を修正している様子

この学習活動から、情報を活用した発表や評価を受け、報告書修正への取組など、ビジネスの諸活動においても重要な位置づけとされるP D C Aサイクルを、授業を通して生徒たちにも実践させることができた。

以下が修正された提案書【図3-1】【図3-2】である。

【図3-1】

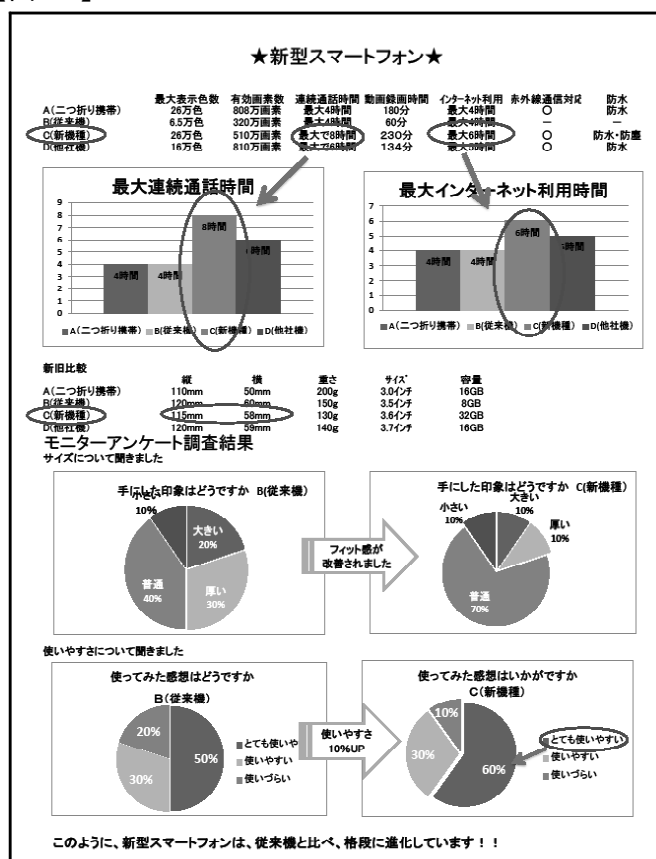


A 班の提案書（修正後）

アドバイスを参考に、タイトルや文字を大きくし、すっきり見えるレイアウトに修正した。また、消費者アンケート結果を反映していることを強調し、販売員が消費者に商品をすすめるように工夫した。

発表時の提案書を修正するに当たり、改善の指摘を受けて見やすい形に直しているのがわかる。タイトルや文字の大きさなどを変え、さらに見やすく分かりやすい提案書に修正することができている。

【図3-2】



B 班の提案書（修正後）

グラフを多用して視覚的に訴えた提案書であったが、説明が足りない部分が見られたので、その部分を円で囲ったり、説明文章がなくても視覚的にアピールできるように改善されている。

旧機種と新機種との比較だけでなく、使用アンケート結果をもとにモニターの意見を反映された点など、発表時より、分かりやすい提案書になった。

(5) 生徒による授業評価

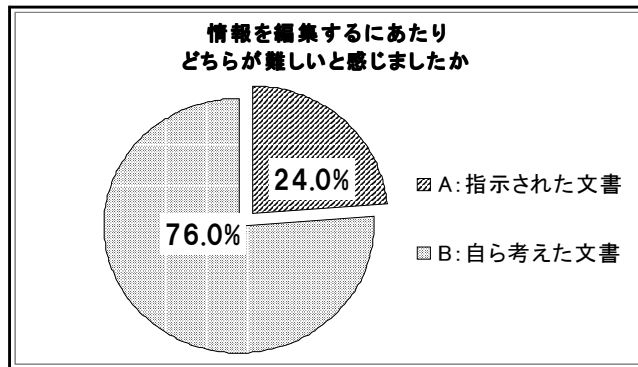
4 時間目の最後に、授業アンケートとして一連の学習を終えて感じたことを記入させた。
以下にアンケート結果と書かれた感想の一部を紹介する。

①質問 1 情報を編集するにあたりどちらが難しいと感じましたか。

A : 指示された通りに文書を作成すること

B : 自分で考えて文書を作成すること

【表1-1】



②質問 2 この授業で難しいと感じた部分はどんなところですか？

- ・どのデータを使ったらよいか、分からなかった。
- ・どんなグラフを作ったら分かりやすいか考えるのが難しかった。
- ・何も記入されていないワークシートに、一から書き込んでいくことが難しかった。
- ・伝える内容を絞ることが難しかった。等

③質問 3 この授業でおもしろかった部分はどんなところですか？

- ・自分たちが考えたことを提案書という形で作れたこと。
- ・名前やグラフなどを選択して、自分たちで工夫ができたところ。
- ・指示されたグラフなどがなかったが、自分たちがイメージした提案書ができあがったのでうれしかった。
- ・聞いてもらう立場を考えて提案書を作成できたところ。
- ・同じ資料でも他の班と違う提案書になったところ。
- ・指示のないところから提案書を作りあげたところ。等

④質問 4 目指す提案書ができたと思いますか？

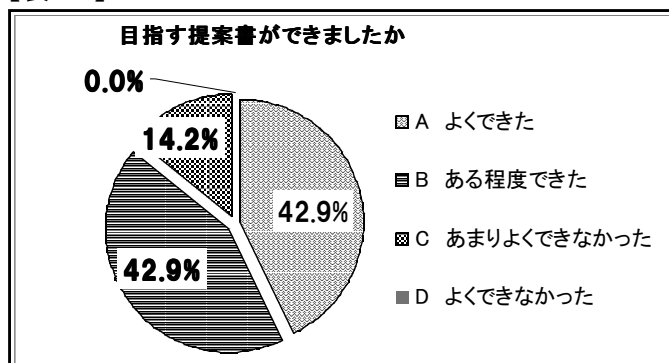
A : よくできた

C : あまりよくできなかった

B : ある程度できた

D : よくできなかった

【表1-2】



⑤質問5 今回の授業の感想を自由に書いてください。

- ・発表は緊張したけれど、うまく話せて良かった。
- ・班で協力し合うことができた。
- ・グラフをたくさん取り入れて見やすく工夫できた。
- ・言いたいことが多すぎてうまくまとめられなかった。
- ・企業に入ったら自分で考えて書類を作ることがあると思うが、それは簡単ではないことが分かった。
- ・修正する時間があつたので、思い通りの文書が作れた。等

感想にもあるように、経済社会では、指示されたことだけ行うのではなく、自ら創意工夫してつくり上げることが必要である。そのような場面に出会ったときに、自分にはそれらができるだろうか、と考えられたことが、生徒の変容と感じた。

3 まとめ

(1) 成果

本事例では、複数の情報から目的に応じたデータを取捨選択して、情報を処理・分析して発表するという学習活動を通して、情報活用能力を育成することを目指した。

与えられた条件どおりに情報を処理することはできても、情報を主体的に活用するために処理・編集することは難しいという感想が多かった。

1時間目に作業をスタートした時点では、生徒は何をしたらよいのかわからず戸惑っていたが、試行錯誤を重ねながら、しだいに積極的に取り組む姿勢が見られるようになった。

2時間目以降は、役割を分担して目的に応じた表やグラフを作成するなど、自主的・主体的な取組が見られた。発表では作り上げた提案書に足りない部分を言葉で補い、分かりやすく説明しようと努める姿が見られた。「うまく発表できなかったので、もう一度発表させてほしい。」という班もあり、プレゼンテーションにも積極的に取り組むことができた。発表後、他者の評価を受け入れて、提案書を修正することができたことは成果である。

生徒には、ソフトウェアの知識や技術の習得にとどまらず、情報を主体的に思考・判断して表現する力が求められている。このことを踏まえて、授業では生徒に主体性をもたせ、ビジネスに関する情報を適切に処理させるとともに、得られた情報をビジネスの諸活動に活用させることで、情報活用能力を育成することができる。

(2) 課題

今回は班を編成し作業を進めたが、班によっては積極的に検討を進められた生徒と、従来の指示を待つ受け身的な立場で進めた生徒の二極化現象が見受けられた。班の人数を少なくするか、班別ではなく各自で一つの文書を作成するようにさせると、よりよかったのではないかと考える。また、一度だけの実践でなく、形を変えて何度か繰り返すことができれば、自ら考え判断する能力をより効果的に身に付けさせることができるのではないだろうか。

〈参考文献〉

『高等学校学習指導要領解説 商業編』 文部科学省 平成22年5月